

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：32660

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02041

研究課題名（和文）ユダヤ難民と日本（1939-1946年）：オーストラリアからの証言

研究課題名（英文）Jewish Refugees and Japan (1939-1946) : Australian Testimonies

研究代表者

菅野 賢治 (Kanno, Kenji)

東京理科大学・理工学部教養・教授

研究者番号：70262061

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：1940年9月、ドイツの侵攻を受けたポーランドを脱し、1941年2月、避難地リトアニアから日本に移動した元ポーランド籍ユダヤ難民2名（戦後オーストラリアに居住）による未公開の証言をもとに、太平洋戦争に突入する直前の日本が、ナチス・ドイツとその占領地から世界に溢れ出たユダヤ難民をいかにして受け入れることとなったか、また、その人々をいかに処遇したのかを再検証する。これにより、第二次大戦期、日本を経由したユダヤ難民をめぐって国内外で行われてきた研究の蓄積に新たに「オーストラリア編」を補填し、21世紀の難民問題に対する日本のあるべきアプローチを思考するための基盤を築く。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2016年、研究代表者が在外研究先のオーストラリアで元ポーランド・ユダヤ難民の姉弟（当時96歳、88歳）と出会ったことをきっかけとして開始した本研究課題は、最終年度、映像作家・大澤未来氏の構成・編集による映像資料「海でなくてどこに」（64分）の公開をもって（<https://marylka-project.com/trailer/>）、計画通りの成果を上げることができた。その間、学術誌に発表された研究論文と、研究期間終了後の刊行が予定されている著書に加えて、このように主題に関心をもつ人々の目と耳に訴える研究成果を残したことは、社会的にも大きな意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Based on unpublished testimonies by two former Polish citizens of Jewish origin who fled the German invasion in September 1940 and moved from Lithuania to Japan in February 1941 (settled in Australia after the war), this research program surveys the itinerary of Jewish refugees through pro-Pearl Harbor Japan. By adding an Australian episode to the immense literature accumulated both nationally and internationally around this topic, the program seeks to lay the foundation for (re)thinking about Japan's due approach to the refugee issue in the 21st century

研究分野：ユダヤ研究

キーワード：ユダヤ・ジェノサイド ユダヤ難民 第二次世界大戦 ポーランド リトアニア 神戸 上海 オーストラリア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2016年2月～8月、東京理科大学の在外研究制度を活用し、オーストラリア、メルボルン大学に客員教授として滞在した研究代表者は、滞在初期、ある大学関係者の集いで研究発表を依頼され、1940～41年、ドイツや東欧からナチスの迫害を逃れてシベリア経由で日本に到達したユダヤ難民のことを論じた。発表の末尾を「これらの難民の中には、その後、上海を経て、オーストラリアに居を定めた人々もいたので、もしもその子孫の方々をご存じの場合はご一報ください」と結んだところ、聴衆の中に「子孫ではなくて、その本人たちを知っている」という方がおり、後日、その本人たちに引き合わせてくれた。それが、メルボルン在住 Maria Kamm 氏(1920年生まれ、96歳)、シドニー在住 Marcel Weyland 氏(1928年生まれ、88歳)の姉弟である(Maria Kamm 氏は、研究期間内、2019年に死去)。

1939年9月、ポーランド、ウッチ在住の Weyland 家に長女 Halina の夫を合わせた6名は、ナチス・ドイツの猛進撃をうけて東部へ避難し、当時のポーランド領ヴィルノ(現リトアニア、ヴィリニウス)に逃れた。欧州外への脱出を企図するも、なかなかその手段が見つからずにいるところ、カウナスの日本領事館で南米のオランダ植民地を最終目的地とする日本通過ヴィザを発給してもらえとの噂を耳にした父 Michal Weyland と娘婿 Boleslaw Jakubowicz は、実際にカウナスへ赴き、杉原千畝・領事代理の手による日本通過ヴィザを取得。1941年2月、ソ連領内に入り、シベリア鉄道を使ってウラジオストックに至り、3月、天草丸で福井県の敦賀港に上陸した。同年9月までの約7ヶ月間、地元のユダヤ共同体の支援を受けながら神戸に滞在し、その間、アメリカ、カナダ、パレスティナ、その他、次なる渡航先の目処も立たなかったため、最終的に、当時、日本の軍政下にあった上海へ移動させられた。幸い、オーストラリア行きの汽船の切符が1枚だけ入手できたため、次女 Maria が先発として上海からオーストラリアに渡ることとなったが、その後、日米開戦により航路が閉ざされ、残る5名は上海のフランス租界、ついで日本軍が指定した居住区に留め置かれ、戦後1946年になって、ようやく Maria が待つオーストラリアに移住することができた(その間、父 Michal は上海で死去)。

研究代表者は、これまで30年近くにわたり、フランスのユダヤ世界を主な研究対象としてきた。ドレフュス事件研究から、反ユダヤ主義研究(特にレオン・ポリアコフ『反ユダヤ主義の歴史』全5巻の日本語訳、筑摩書房から刊行)を経て、昨年、単著『フランス・ユダヤの歴史』を脱稿し、2016年8月、慶應義塾大学出版会から上下2巻で刊行することができた。その間、かつてアメリカを目指す移民たちの「過酷な玄関口」と称されたマンハッタン島沖合のエリス島と、1940～41年の福井・敦賀港とを比較する試みに着手していた研究代表者は、1999年3月、実際に敦賀市を訪ね、同市教育史編さん室で資料調査に着手していた。

2016年、フランス・ユダヤをめぐる10数年越しの自著を完成させた今、ユダヤ研究を日本の歴史的・地域的文脈に応用して発展させるべく、再度、1940～41年の日本に滞在したユダヤ難民に関する研究に立ち返ろうと考えていた矢先、このように実際に神戸に滞在した元ユダヤ難民の方々にオーストラリアで出会うことができたのは、望外の幸せであり、大きな驚愕でもあった。

2. 研究の目的

上記2名の元ポーランド籍ユダヤ難民による未公開の証言をもとに、太平洋戦争に突入する直前の日本が、ナチス・ドイツとその占領地から世界に溢れ出たユダヤ難民をいかにして受け入れることとなったか、また、その人々をいかに処遇したのかを再検証する。これにより、第二次大戦期、日本を経由したユダヤ難民をめぐる国内外で行われてきた研究の蓄積に新たに「オーストラリア編」を補填し、21世紀の難民問題に対する日本のあるべきアプローチを思考するための基盤を築く。

3. 研究の方法

(1) 上記2名の元ユダヤ難民の方々に対するインタビュー、ならびにその活字資料化

(2) 上記2名とその家族が所有している関係資料(旅券、査証、鉄道や船舶のチケット、手紙、葉書、写真など)のデジタル資料化

(3) 上記2名のインタビュー内容、ならびに本人や家族がこれまで書き残してきた文字資料を他の歴史資料と突き合わせることにより、1939年のポーランドから1946年のオーストラリアまで、彼らとその家族が辿った7年にわたる避難の軌跡を厳密に確定する

(4) この2名のケースを導き手として、太平洋戦争開戦までの日本が、なぜ、いかにして、同盟国たるナチス・ドイツに起因するユダヤ難民を大量に(推定4～5千人)受け入れることになり、また、日本の政府、行政当局、官憲、言論界、一般の市井人たちが、それぞれ、この難民た

ちをいかに処遇しようとしたか、具体的に明らかにする

(5) 戦前・戦中の日本における外国籍住民の取扱いを、同時代の国際社会が採用しようとした難民政策との兼ね合いにおいて捉え直し、そこに戦後日本における難民受け入れ政策の消極性につながる連続的要素を見出すことができるか、検証する

4. 研究成果

(1) 研究成果をまとめた映像資料「海でなくてどこに」を制作し、すでに日英二語使用の専用ホームページ上で公開した。<https://marylka-project.com/trailer/>

当初、30～40分程度のもを想定していたが、編集の最終段階で90分を超え、そこから短縮に努めた結果、64分の映像資料となった。取材の対象となったオーストラリアのウェイランド家の方々からも好評を得、ホームページ上で視聴した国内外の人々からも高い評価を得ている。結果的には、映像作家・大澤未来氏に委託した編集作業費が不足し、別途、関連が深い研究主題で採択された国際共同研究強化(B)(課題番号18KK0031)と相乗りの形で完成を見たが、この映像資料が本研究課題の最大の成果物であることに変わりはなく、新型コロナ・ウィルスの感染拡大により編集作業にも大きな支障が生じるなか(2019年度までのように東京理科大の会議室での作業ができず、オンラインでの編集を余儀なくされた)、研究期間内にこの映像資料を完成させ、公開することができたのは、非常に満足のいく結果であった。

(2) 研究計画では、最終年度、冊子体でも研究成果をまとめることにしており、実際に「第二次大戦初期リトアニアのユダヤ難民：日本への道行き」として、A4、300ページ程度の成果報告書がほぼ完成していたが、2020年秋、これをとある出版社から単著として刊行する企画が持ち上がったため、年度内の印刷、製本はいったん見合わせた。現在、この出版計画が進行中であり、2021年度内に書籍になる見通しである。

(3) その他、本研究課題に関する研究発表、研究論文を国内外の学術の場で行なうことができ(最終年度は、予定されていた国際シンポジウムが2件、中止となってしまったが)、その数と内容に満足している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 10
2. 論文標題 日本軍政下の上海にユダヤ絶滅計画は存在したか（続） 實吉敏郎・海軍大佐の未公開文書より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 6-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 24
2. 論文標題 JDC資料に見る戦時期日本のユダヤ難民救援活動 - 端緒の時期：1939年12月～1940年6月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ナマール	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yakov Zinberg, Kenji Kanno	4. 巻 18
2. 論文標題 Towards Positive Historiography of Japan's Jewish Policies in Wartime Shanghai: Two Samples of Primary Sources Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国士館大学21世紀アジア学会『21世紀アジア学研究』 / Bulletin of Asian Studies, 21st Century Asian Studies Association	6. 最初と最後の頁 61-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 52
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会（2）1939年5～8月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要（教養編）	6. 最初と最後の頁 257-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 第9号
2. 論文標題 日本軍政下の上海にユダヤ絶滅計画は存在したか 柴田貢とヨーゼフ・マイジンガーの周辺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 68-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 40号
2. 論文標題 日本軍政下の上海におけるユダヤ絶滅計画の存否をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 非文字資料研究センターNews Letter	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 23号
2. 論文標題 『福井新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来 第二部：1941年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ナマール	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 51号
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (1) 1939年1~4月	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要 (教養編)	6. 最初と最後の頁 213-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 22
2. 論文標題 『福井新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来 第一部：1940年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ナマール	6. 最初と最後の頁 18-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 50
2. 論文標題 ユダヤ難民と日本（1940～41年） - ヴェイラント＝ヤクボヴィチ家の足跡を辿りながら -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要（教養編）	6. 最初と最後の頁 247-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 124
2. 論文標題 『関門日日新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来－1938年11月～1940年8月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口県地方史研究	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 11
2. 論文標題 上海無国籍避難民指定居住区の設置過程－貫吉敏郎海軍大佐の未公開文書をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 12-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 53
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (3) 1939年9月～1940年2月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要(教養編)	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計12件(うち招待講演 4件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 上海無国籍避難民指定居住区(「上海ゲッター」)の設置過程 實吉敏郎海軍大佐の未発表文書をもとに
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会、第十二回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 Perspectives for an integral and multinational study on Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai
3. 学会等名 International Symposium "Jewish Refugees in Shanghai: Research and Historical Memory Sharing"(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 Invitation to Marylka Project: an international historical and artistic project on Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai
3. 学会等名 Shanghai Jewish Refugees Museum, Special Lecture(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 両大戦間期のパリの芸術とユダヤ社会 - 「エコール・ド・パリ」の画家たち
3. 学会等名 かわさき市民アカデミー、エクセレント 講座「ユダヤ人、ユダヤ教、イスラエル（第二部）」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 The Actual number of Jewish refugees in wartime Japan
3. 学会等名 公開研究会 Open Seminar 「戦時期の日本と上海におけるユダヤ難民の多様性」 Diversity of Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 日本軍政下の上海にユダヤ絶滅計画は存在したか？（続）
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会 第十回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅野賢治、大澤未来
2. 発表標題 戦時期日本のユダヤ難民 敦賀・神戸・上海
3. 学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会 2018年度第1回文化講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 日本軍政下の上海にユダヤ絶滅計画は存在したか？
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会 第十回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 日本軍政下の上海におけるユダヤ絶滅政策の存否をめぐって
3. 学会等名 神奈川大学非文字資料研究センター2017年度第三回公開研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 「上海無国籍避難民指定居住区」の設置の反響 實吉敏郎海軍大佐の未発表文書をもとに
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会、第十三回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 How many Jewish refugees reached Japan in 1940-41? --- a preliminary study
3. 学会等名 Going into Nowhere? ---A Jewish Transit Migration and East Asia During WWII (Web Symposium)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 『関門日日新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来 1938年11月～1940年8月ー
3. 学会等名 第133回山口県地方史研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 アーノルド・ゼイブル、菅野賢治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 320
3. 書名 カフェ・シェヘラザード	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>戦時期日本、ユダヤ難民の物語 https://marylka-project.com/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大澤 未来 (Osawa Mirai)		撮影、構成、映像編集

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	レイチェル ウォルズ (Walls Rachel)		映像制作協力（アニメーション）
研究協力者	小畑 美史 (Obata Mifumi)		撮影コーディネイト、通訳
研究協力者	シュミート ヘニング (Schmiedt Henning)		映像資料への音楽提供
研究協力者	宮森 敬子 (Miyamori Keiko)		映像資料への美術参加

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 公開研究会 Open Seminar 「戦時期の日本と上海におけるユダヤ難民の多様性」 Diversity of Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai	開催年 2020年～2020年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関